

Tally PLUS

マニュアル



Tally Secure Wallet

ターリー・セキュア・ウォレット株式会社

著作権情報

保証の否認

ターリー・セキュア・ウォレット株式会社は、このドキュメントの内容について明示または黙示のいかなる保証または表明も行わないものとし、商品性または特定目的適合性に関する黙示の保証について、あるいは間接損害、特別損害、結果損害について一切の責任を負わないものとします。

著作権情報

本書に記載している商標およびロゴはすべて各社の登録商標です。

ターリー・セキュア・ウォレット株式会社の書面による事前許可なしにこのドキュメントの一部または全部を写真複製、録音などの方法／形態で、複製、検索システムへ保存、他へ転送することを禁じます。また、ここに記載の情報の利用については、特許に関連する法的責務は想定していません。ターリー・セキュア・ウォレット株式会社は細心の注意を払いこのドキュメントを準備していますが、情報の誤りや欠落について、一切の責任を負わないものとします。このドキュメントに記載されている内容と機能は予告なしに変更されることがあります。

内容

1	本書について	5
2	Tally PLUS の導入	5
	インストールを始める前に	5
	システム要件	5
	アプリケーションの関連付けについて	6
	インストール	8
3	Tally PLUS のアクティベーション	9
4	管理者アカウントとユーザーアカウント	11
	概要	11
5	Tally PLUS の環境設定	11
	概要	11
	環境設定 (基本設定)	12
	基本設定	14
	保存先の追加と編集	15
	ネットワークドライブ設定方法	16
	WebDAV 対応型オンラインストレージ設定方法	16
	モバイル機器 (USB) 設定方法	16
	モバイル機器 (WiFi) 設定方法	17
	保存先の決め方	21
	環境設定 (対象設定)	22
	環境設定 (セキュリティ)	22
	環境設定 (USB リスト登録)	26
	環境設定 (使用場所登録)	27
	環境設定 (管理サーバ設定)	28
	設定情報の表示	28
6	Tally PLUS の操作履歴	29
7	ファイルの分割	30
	分割方法	30
8	ファイルの復元	30
	復元方法	30
9	ファイルのエクスポート	31
	エクスポート方法	31
10	ファイルのインポート	33
	インポート方法	33
11	プロパティ	34
	プロパティの閲覧	34
	管理者モード	34
12	Tally PLUS のバージョン情報	35

13	割符ファイルの処理	36
	仮割符の自動削除	36
	ショートカットの削除	36
14	Tally PLUS のバージョンアップ・削除	36
	セットアップファイルを使用したバージョンアップ手順	36
	アップデータを使用したバージョンアップ手順	37
	プログラムを完全に削除する場合	39
15	Tally PLUS の使用上の注意	39

1 本書について

この度は、Tally PLUS をご購入頂きまして誠にありがとうございます。本書は、Tally PLUS の使用および操作に関するマニュアルです。製品に関してご不明な点などがありましたらサポート先までご連絡下さい。

2 Tally PLUSの導入

インストールを始める前に

ご使用に必要なファイルとシステム要件をご確認下さい。

- セットアップファイル
- マニュアル
- アクティベーションを行うためのライセンスキー

上記はお客様の責任で大切に保管頂きますようお願い致します。

初めて Tally PLUS を導入する場合は、Tally PLUS セットアップファイルをご使用下さい。

システム要件

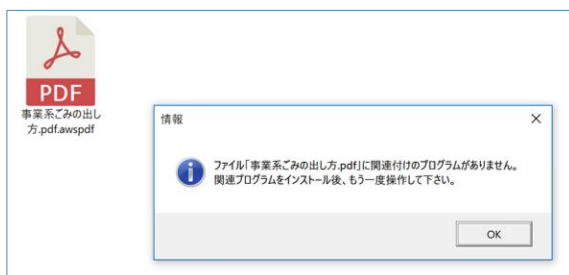
インストール前に動作環境が次の要件を満たしていることをご確認ください。

- サポートされる OS: Windows 7、Windows 8/8.1、Windows 10
- 必須モジュール: .NET Framework 4.5 以上がインストールされている必要があります。
インストールされていない場合でも、インストールウィザードがインストールの有無を検出し自動的にインストールするように設計されています。
- CPU: 1GHz 以上
- メモリ: 1GB 以上(32bit)、2GB 以上(64bit)
- ハードディスク: 1GB 以上あることが望ましい、但しローカルマシンに割符ファイルを保存する場合、そのデータ容量に応じてハードディスクの容量を増やす必要があります。

Tally PLUS のバージョンアップの際は、以前のバージョンのプログラムをアンインストールする必要があります。プログラムの削除に関しては後述の章をご覧ください。

アプリケーションの関連付けについて

Tally PLUS で分割・復元するにあたり Windows のデフォルト設定では復元できない場合があります。Windows のデフォルト設定では、例えば pdf ファイルは Microsoft Edge、jpg ファイルはフォト、ビデオは映画&テレビにそれぞれ関連付けされています。しかしながら、このデフォルト設定のままでは、Tally PLUS がもとに戻したデータを開くために関連するアプリケーションが見つからないという旨のエラーが表示されます。



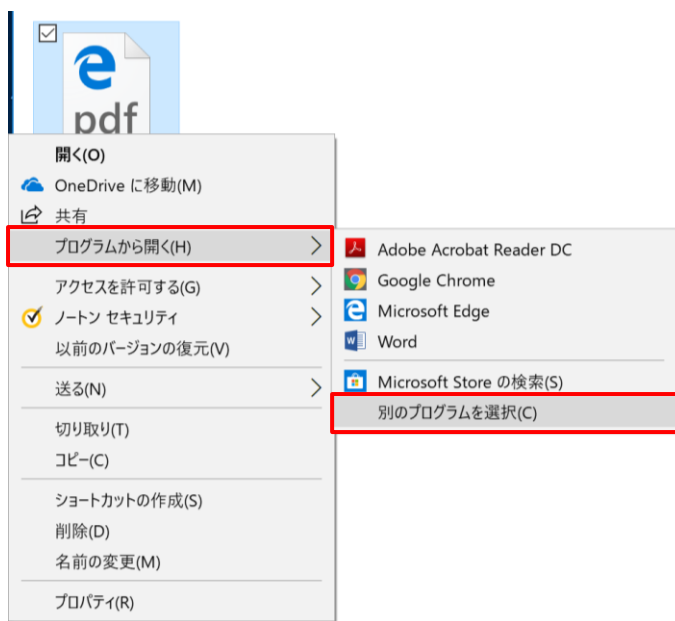
この現象を回避するには、当該ファイルに対してアプリケーションを関連付けし直す必要があります。Tally PLUS をご使用になる前に、プログラム関連付けを設定しなおしてください。他のサードパーティ製のソフトでも構いません。

<設定変更が必要となるファイルタイプと推奨ソフト>

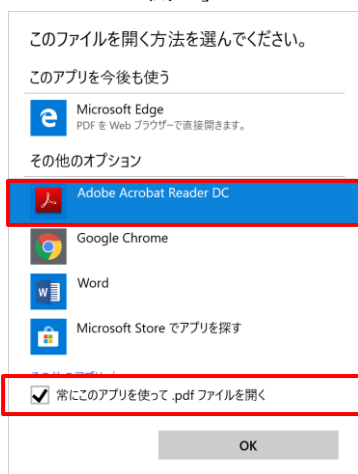
ファイルタイプ	推奨ソフト
PDF ファイル (拡張子: pdf)	Adobe Acrobat Reader DC
画像ファイル (拡張子: jpg、jpeg、png、gif、tif、tiff 等)	IrfanView、QuickTime、 ペイント (Windows 添付)
動画ファイル (拡張子: mpg、mp4 等)	GOM Player、QuickTime、 Windows Media Player (Windows 添付)
音楽ファイル (拡張子: wav、mp3 等)	QuickTime、 Windows Media Player (Windows 添付)
Zip ファイル	Lhaplus

プログラム関連付けの設定方法 (pdf を例に説明します)

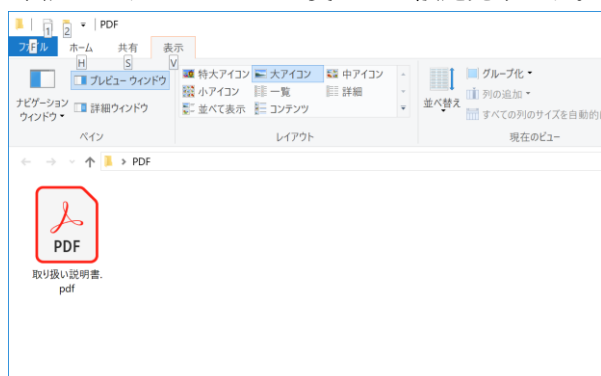
- ① 開きたいファイルを選択し、[右クリック]>プログラムから開く>別のプログラムを選択をします。



- ② 下記画面がでますので Adobe Acrobat Reader を選択し、[常にこのアプリを使って.pdf ファイルを開く]にチェックを入れます。



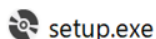
- ③ 下記のようにアイコンが変われば設定完了です。



インストール

Tally PLUS をコンピュータ (PC) にインストールします。コンピュータの管理者権限で Windows にログオンして下さい。

- ① セットアップファイルが入ったフォルダを開き、setup.exe (CD のアイコン) をダブルクリックします。



- ② インストールウィザードが起動します。[次へ(N)]をクリックして下さい。
- ③ Tally PLUS のインストール先を指定します。現在表示されている場所 (フォルダー) で問題がなければ[次へ(N)]をクリックして下さい。インストール先フォルダを変更するには、[参照]ボタンをクリックし、フォルダを指定します。
- ④ インストールする準備が整いました。[次へ(N)]をクリックして下さい。
- ⑤ ライセンス条項をお読みにになり、内容に同意頂きましたら、[次へ(N)]ボタンをクリックして下さい。[ユーザーアカウント制御]ポップアップが表示され、「この不明な発行元からのアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」が出た場合、[はい]をクリックします。
- ⑥ インストールの進捗を示す画面が表示されます。
尚、インストール先のディスクの容量が足りない場合、その旨を通知するメッセージが表示されます。メッセージの指示に従って下さい。

ユーザーログイン情報の新規作成ウィンドウが表示されます。(このウィンドウは、インストールウィザードの背面に隠れている場合があります。) 任意のユーザーID とパスワードを入力してユーザー権限のログインアカウントを作成して下さい。好きな任意の文字列で構いません。また、パスワードは何度でも変更可能ですが、ID は一度設定登録済となったものは、その後の変更はできませんのでお取扱いにご注意下さい。(尚、Tally PLUS をバージョンアップする際、以前のバージョンをアンインストール時に設定情報を削除しないとした場合、Tally PLUS の再インストールする際に画面は表示されません。)



ユーザーIDとパスワードを入力して下さい。
*最初に指定されたユーザーIDは変更出来ません。

ユーザーID

パスワード

パスワード(確認)

この時点で、ウィンドウ右上の×をクリックし、ユーザーを設定しないこともできます。ユーザー設定しない場合は、サブメニューに[ユーザー設定]がメニューに追加されます。

[ユーザー設定]を選択すると、ウィンドウが表示され、後からでもユーザー設定が行えます。

ユーザーID
パスワード
パスワード確認

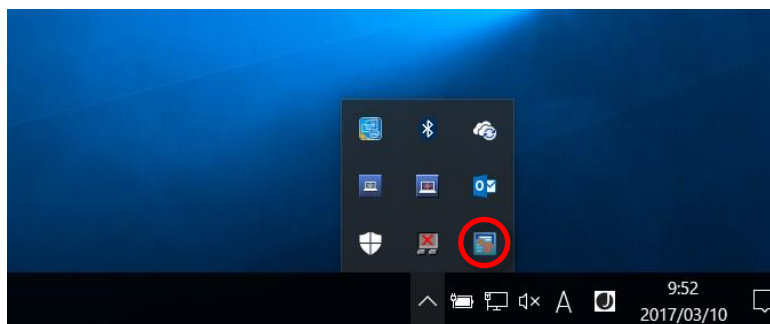
- ⑦ インストールは無事完了です。[閉じる]をクリックして下さい。

3 Tally PLUSのアクティベーション

インストールしたばかりの Tally PLUS のアイコンは、デスクトップ画面右下のタスクトレイ上に置かれています。Tally PLUS を製品版として使用する場合は提供されたライセンスキーを Tally PLUS に入力して、製品のアクティベーションを行います。アクティベーションを行わず、本製品を使用しようとした場合、ビューア（ファイルの復元のみ可能）として動作します。

Tally PLUS のアクティベーションは、下記の手順になります。

- ① Tally PLUS アイコンを右クリックします。



- ② [アクティベーション]をクリックします。
- ③ 購入された製品版ライセンスキーを[ライセンス No]フィールドに入力します。ハイフンはご入力下さい。

電話認証を行うため、認証で使用する電話番号を登録します。電話番号はハイフン無しでも構いません。

注: 固定電話の電話番号も登録できますが、携帯電話またはスマートフォンの電話番号をお勧めします。

インターネット接続があるお客様は[オンライン取得]チェックボックスを有効にし、[アクティベーション]ボタンをクリックすると認証 No とアクティベーションコードが生成・自動入力されます。

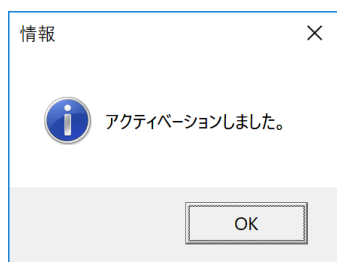
端末にインターネット接続がないお客様は[オンライン取得]チェックボックスを無効にし、ライセンスキーと電話番号を弊社までご連絡下さい。弊社より、アクティベーションコードをお送り致します。ライセンスキー、電話番号、アクティベーションコード、認証 No、電話番号を Tally PLUS ソフトのアクティベーションウィンドウに入力します。

社内のプロキシを使用される場合には「プロキシ使用」にチェックを入れ、プロキシの認証に必要な情報を入力して下さい。

☐ プロキシ使用 (チェックしない場合はシステムのプロキシ設定を使用します。)

構成ファイルをライセンスキーと同時にご依頼されたお客様は[オンライン取得]のみの選択となります。

- ④ 次のメッセージが表示され、アクティベーションが行われます。この後、製品をご使用になれます。



アクティベーション後は、プロキシ設定の部分は非表示になります。設定の閲覧または編集は、環境設定の[管理サーバ設定]に入して下さい。

4 管理者アカウントとユーザーアカウント

概要

Tally PLUS のログインアカウントには、管理者とユーザーの二種類があります。それぞれのアカウントでできる事は下記の通りです。

管理者	ユーザー
● 全環境設定(7 章参照) ● 管理者アカウントの PW の変更 ● ユーザーアカウントの PW の変更	● 一部の環境設定 ● ユーザーアカウントの PW の変更

管理者アカウントの ID/PW 初期値は購入時に同梱された文書または送付されたメール本文内に記載されていますので、導入後に変更してください。また、ユーザーアカウントの ID/PW は、Tally PLUS のインストール時にお客様が設定されたものです。

5 Tally PLUSの環境設定

概要

Tally PLUS は、下記の各種設定が下記のタブから行えます。Tally PLUS の環境設定は、管理者が行います。設定を行うには管理者用のログイン情報を使用して、設定画面にログインします。

事前にアクティベーションを行わないと、管理者でログインできません。管理者の方は必ずログイン情報を変更して下さい。パスワードは何回でも変更が可能です。

一般ユーザーが設定内容を編集できる項目は、下記の通りです。

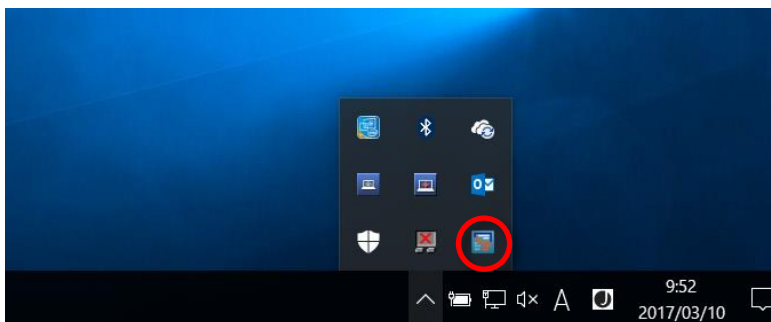
- 基本設定
- 対象設定
- セキュリティ
- USB リスト登録
- 使用場所登録
- 管理サーバ設定

一般ユーザーが設定内容を編集できる項目は、限られています。

環境設定（基本設定）

割符基本設定では割数や割符ファイルの保存場所を指定します。

- ① 環境設定画面が開いていない場合、タスクトレイの Tally PLUS アイコンを右クリックします。



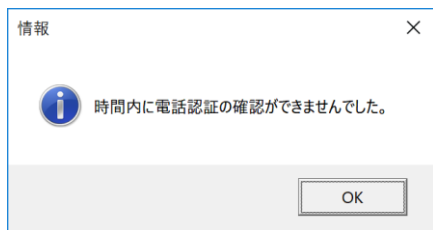
- ② [環境設定]をクリックします。
- ③ 設定を行うには、管理者アカウントでログインします。インストール時に設定したユーザーID とパスワードはユーザーであり、管理者ではありませんので設定変更できません。ログイン画面は毎回表示されます。

ユーザーID とパスワードを入力し、Enter キーを押します。ユーザーID とパスワードが正しければ、次に電話番号認証を行います。電話番号が画面下部に表示されます。アクティベーション時に登録した電話番号の電話機から、画面に表示された番号へおかけ下さい。QR コードをスマートフォンのカメラで撮影すると電話番号が取得できますので、そのままタッチして電話を掛けることもできます。

注: 通話料は発生しません。

注: 携帯電話等で、非通知設定にしている場合は認証されませんので、設定を解除して下さい。

画面下部に青色のバーがあります。時間が経つにつれ濃い青色のバーが短くなりますが、これが無くなるまでに電話をおかけ下さい。電話認証が規定時間内に行われなかった場合は、下記のメッセージが表示されますので、再度行って下さい。

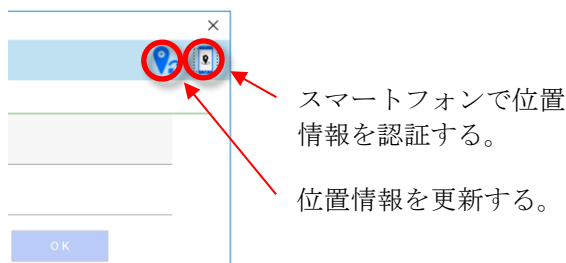


端末がオフラインの場合、ログイン画面上には QR コードが表示されます。その場合は次の手順を行って下さい。

スマートフォンでその QR コード部分を撮影します。撮影は、アクティベーションにて登録した電話番号を持つ電話機を使用して下さい。アクセス先 URL の通知が表示されますので、その URL にアクセスし、表示された電話番号をタップして、電話をかけます。

8 桁の認証コードが表示されます。そのコードを Tally PLUS ソフトのログイン画面に入力し、認証を行います。これで、電話認証が完了します。

- ④ 環境設定(使用場所登録)が有効になっている場合、設定場所と端末の場所の判定が自動的に行われます。この位置情報認証が成功した場合は環境設定画面が表示されます。もし、この位置情報認証時に端末が範囲内に無い場合、ウィンドウが表示されます。



ウィンドウ右上には二つのアイコンが表示されます。

[位置情報を更新する。]をクリックすると、端末の位置情報を再度取得します。更新することにより、より正確な位置情報を取得し、位置情報認証が行える場合があります。その場合、ユーザーID やパスワードを入力するフィールドがアクティブになり、ログインができるようになります。

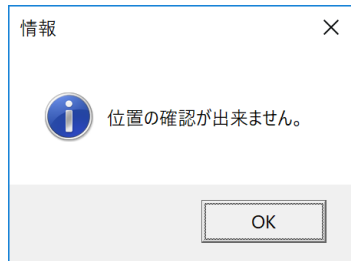
[スマートフォンの位置情報を認証する。]をクリックすると、下記のような QR コードが表示されます。QR コードをスマートフォンのカメラで読み込ませます。ウィンドウ下部に青色のバーがあります。時間が経つにつれ濃い青色のバーが短くなりますが、これが無くなるまでに行ってください。



スマートフォンに表示された画面で、[OK]ボタンをタップします。

スマートフォンからその位置情報が Tally PLUS へ送信されます。

スマートフォンが指定場所内にあれば、位置情報認証が行えます。その場合、ユーザー ID やパスワードを入力するフィールドがアクティブになり、ログインができるようになります。もし、位置情報が確認できない場合、下記ウィンドウが表示されます。



この機能により、指定場所ではファイルを復元できなくなります。設定した場所の指定範囲内に端末(又はスマートフォン)がなければ、認証は成功せず復元は行われません。尚、セッションがタイムアウトしていない場合は、位置情報認証は無視されます。

端末の位置情報サービスが無効になっている場合は、本機能は利用できません。

ワンタイムパスワード認証を有効にしている場合は、下記の手順になります。

- ① Tally PLUS のログイン時に、ユーザーID/パスワードを入力します。
- ② [認証システムの 6 桁の数字入力]の欄が表示されますので、iOS 端末の場合は「Google Authenticator」アプリを、Android 端末の場合は「Google 認証システム」アプリを起動し、アプリ上に表示された 6 桁の番号をその欄に入力します。
- ③ 認証が成功すると、ログインできます。
- ④ 認証が完了しましたら、環境設定画面が表示されます。環境設定画面では、左の列から[基本設定]を選択します。

基本設定

- 割数: 単一ファイルを割符ファイルに分割する数です。[2]を選択すると 2 個の割符ファイルに分割します。割数は 2 ～ 5 個まで選択できます。
- 復元オプション: 割数に応じて表示される復元オプションが変わります。復元に全ての割符ファイルが必要か、一部無くても復元できるようにするのか選択します。
- 最小ファイルを保存先 1 に保存: 1 つの割符ファイルを元ファイルの千分の一の容量にし、その他の割符ファイルは均等割にしたい場合「最小ファイルを保存先 1 に保存」にチェックを入れます。チェックがない場合は、データを均等に分割します。
- 割符ファイル保存先: 割符ファイルを保存する場所です。設定した割数の数分指定

する必要があります。

保存先の追加と編集

画面中央に配置された緑地に白抜き文字が入った[保存先の追加と編集]ボタンをクリックすると下記画面に移動します。この画面で保存場所を作成する必要があります。この画面で保存先の追加・削除・編集が可能です。

- 新規作成: 割符ファイルの保存場所を新規作成します。[表示名]には画面上に表示する名前を入力し、[保存場所形式]を下記ドロップダウンメニューより選択した後、必要な追加情報を入力します。
 - ローカル HDD: ローカルドライブとして認識されているドライブ(通常、C ドライブ)に割符ファイルを保存します。
 - 外付け HDD (USB): 外部媒体として接続されている USB に割符ファイルを保存します。
 - ネットワークドライブ: 接続しているローカルネットワーク上のリモートフォルダに割符ファイルを保存します。
 - FTP: FTP サイトに割符ファイルを保存します。
 - WebDAV: WebDAV サイトに割符ファイルを保存します。
 - FUJITSU Cloud Service for OSS: FUJITSU クラウドストレージに割符ファイルを保存します。
 - Amazon S3: Amazon S3 クラウドストレージに割符ファイルを保存します。
 - Microsoft Azure ストレージ: Microsoft Azure クラウドストレージに割符ファイルを保存します。
 - IBM クラウドストレージ: IBM クラウドストレージに割符ファイルを保存します。
 - モバイル機器(USB): USB ケーブルで接続したモバイル機器 (例: スマホ、タブレット) に割符ファイルを保存します。
 - モバイル機器(Wi-Fi): Wi-Fi で接続したモバイル機器 (例: スマホ、タブレット) に割符ファイルを保存します。
- 保存: 上記の項目を入力した後このボタンをクリックします。尚、既存の保存場所を編集する場合、左側のリストから目的の項目を選び右側に表示された情報を修正します。修正が完了しましたら[保存]をクリックします。
- 削除: 既存の保存場所を削除します。既定の保存場所である、No.01 のローカル HDD、No.02 の外付け HDD は削除できません。

注: FUJITSU Cloud Service、Amazon S3、Microsoft Azure、IBM クラウドの設定方は、当該クラウドサービスの利用条件、契約内容に従い設定願います。

設定が完了したら、画面右上の×をクリックして画面を閉じます。

ネットワークドライブ設定方法

割符ファイルの保存先としてネットワークフォルダを指定する場合は、保存場所形式に [ネットワークドライブ] を選択します。

- ネットワークを選択(入力)して下さい: リモートフォルダ(ネットワークフォルダ)のフルパスを直接入力するか、[参照]ボタンをクリックして、保存先ネットワークフォルダを指定します。
- ネットワークユーザー: そのフォルダにアクセスするユーザーを Domain/user の形式で入力します。入力はオプションです (フォルダの管理者に確認願います)。
- ネットワークパスワード: そのフォルダにアクセスするパスワードを入力します。入力はオプションです (フォルダの管理者に確認願います)。
- 接続テスト: 指定したフォルダにこのコンピュータからアクセス可能かをテストします。タイミングによって NG になる場合があります。その場合には再度接続テストを行ってください。

WebDAV 対応型オンラインストレージ設定方法

WebDAV 対応型オンラインストレージを保存先に設定する場合は、保存場所形式に [WebDAV] を選択します。例えば、box 上に [warifu1] というフォルダを作成し、それに割符を保存したい場合、URL には、「<https://dav.box.com/dav/warifu1>」と入力し、サーバログインユーザー及びサーバログインパスワードには box へのログイン情報を入力します。

注: サードパーティのオンラインストレージを使う際は、そのオンラインストレージサービスプロバイダの利用条件に従って下さい。

モバイル機器 (USB) 設定方法

モバイル機器を USB ケーブルで使用する場合、下記の点にご注意下さい。

- モバイル機器と PC を接続する時は、データ通信用 USB ケーブルをお使い下さい。この場合、充電のみを行うケーブルをお使いになった場合、PC 側で当該モバイル機器を認識しませんので、必ずデータ通信ができる USB ケーブルをお使い下さい。
- モバイル機器の電源が切れていたり、スリープ状態の場合は、PC 側で当該モバイル機器を認識しませんので、スリープ状態を解除して下さい。
- Android 端末のみサポートされます(Android 4.4 以上)。iOS 端末、Windows Phone はサポートされません。
- モバイル端末を外部ストレージとして認識するには、PC 側でドライバをインストールする必要があります。初回接続時に、ドライバのインストールが行われますので、完了するまでお待ち下さい。
- Android 端末を PC と USB 接続すると「USB 接続の用途」を確認する画面が表示されます。最初は[この機器を充電する]になっていますので[ファイルを転送する]に変更し

てください。これにより PC から Android 端末内のファイルが見えるようになります。

- [モバイルデバイス]ドロップダウンメニューには、モバイル機器の一覧が表示されます。保存先とするモバイル機器を選択し、[保存]ボタンをクリックして下さい。[保存エリア]には、モバイル機器の本体メモリ内に割符ファイルを保存するか、SD カード内に保存するかを選択します。
- タイミングによっては接続テスト NG になる場合があります。その場合には、再度[接続テスト]をやり直ししてください。

モバイル機器 (WiFi) 設定方法

[モバイル機器(Wi-Fi)]を選択した場合、下記の手順を行います。

<接続環境上の注意事項>

- Wi-Fi でモバイル機器(Android 端末、iOS 端末)を接続する場合、PC とモバイル機器とが同一のネットワーク (SSID)上になければなりません。
- Wi-Fi 環境がない場合、Windows10 モバイルホットスポット機能を利用して PC と接続することができます。

<モバイルホットスポット設定方法>

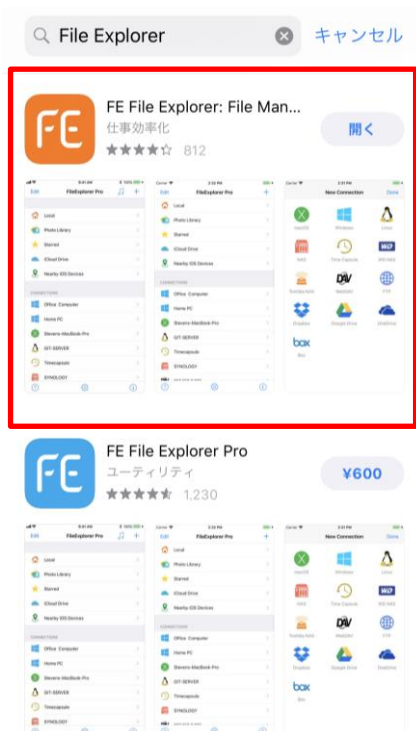
Windows10 PC の設定「ネットワークとインターネット」にて①モバイルホットスポットを有効にし、②表示されたネットワーク名とパスワードをモバイル機器に設定してを接続してください。(下図参照)



iOS 端末の場合

スマートフォン側でファイルサーバアプリをダウンロード、インストールします。iOS 端末で App Store にアクセスします。

- ① 「FE File Explorer」アプリを検索し、インストールします。



これをインストール

- ② iOS の[設定]→[一般]→[情報]を選択します。Wi-Fi アドレスをメモに取ります。



そのままメモ

- ③ Tally PLUS の環境設定で、[割符基本設定]→[保存先の追加と編集]を選択します。[新規作成]ボタンをクリックし、[保存場所形式]で[モバイル機器(Wi-Fi)]を選択します。

- ④ [MAC アドレス]には②の値を入力します。[ポート]には 21 を入力します。
- ⑤ 「FE File Explorer」アプリを起動・画面に表示したままの状態にします。接続時には、画面に表示したままの状態を保って下さい。
- ⑥ Tally PLUS の環境設定で、[接続テスト]ボタンをクリックし、iOS 端末との接続テストを行います。成功すれば接続が OK となります。タイミングにより失敗することがありますが、その場合は再度接続テストを実施してみてください。

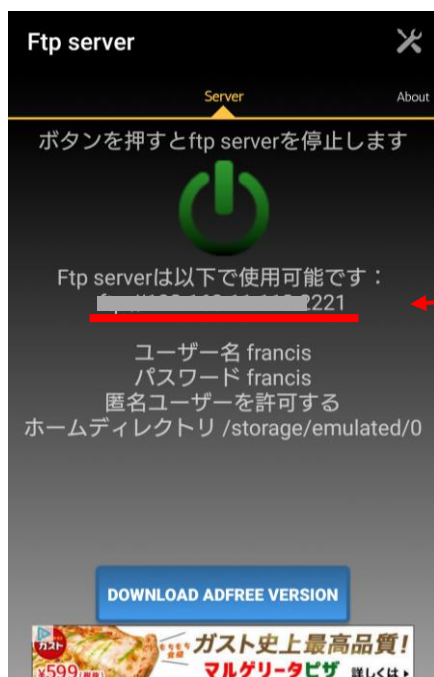
Android 端末の場合

スマートフォン側でファイルサーバアプリをダウンロード、インストールします。Android 端末で Play ストアにアクセスします。

- ① 「Ftp server」アプリを検索し、インストールします。



- ② 「Ftp server」アプリを起動し、画面に表示された「ftp://[IP アドレス]:[ポート番号]」からポート番号をメモに取ります。



2221 がポート番号

※FTP サーバアプリケーションによって、この番号が変わる場合があります。

- ③ Android 端末で、[設定]→[Wi-Fi]を選択し、画面右上の三点をタップします。[詳細設定]をタップします。MAC アドレスをメモに取ります。



そのままメモ

- ④ Tally PLUS の環境設定で、[基本設定]→[保存先の追加と編集]を選択します。[新規作成]ボタンをクリックし、[保存場所形式]で[モバイル機器(Wi-Fi)]を選択します。
- ⑤ [MAC アドレス]には③の値を入力します。[ポート]には②を入力します。
- ⑥ Tally PLUS の環境設定で、[接続テスト]ボタンをクリックし、Android 端末との接続テ

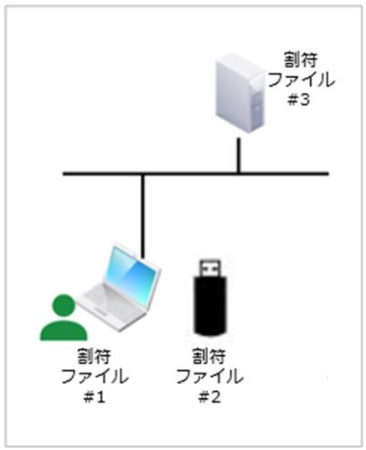
ストを行います。成功すれば接続できる状態となります。タイミングにより失敗することがありますが、その場合は再度接続テストを実施してみてください。

注：モバイル端末側のアプリケーションは、Tally PLUS を利用するたびに起動した方が安定動作します。利用しない時はモバイル機器側のアプリケーションを停止しておくことをお勧めします。

保存先の決め方

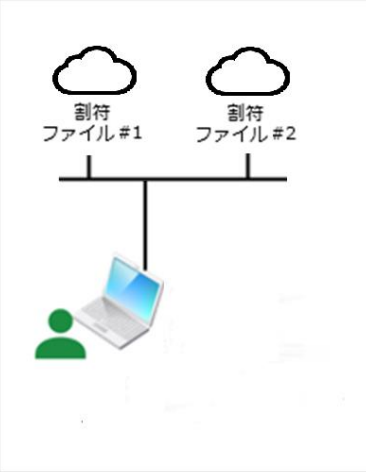
<ケース 1>

ノート PC、USB、ネットワーク上のファイルサーバに 3 分割し、割符ファイルが一つ欠けてもファイルが復元できるようにしたい。ファイルを上書きしてもファイルを増やしたくない。

ネットワーク構成図	設定例
	割数を[3]にし、復元オプションを[割符したファイルが 1 個なくても復元できるように割る]を選択します。 保存先 1 に[ローカル HDD] 保存先 2 に[USB] 保存先 3 に[ネットワークドライブ] を設定します。

<ケース 2>

異なる二つのオンラインストレージを使用する場合。

ネットワーク構成図	設定例
	割数を[2]にし、復元オプションを[割符した全てのファイルが揃わないと復元できないように割る]を選択します。 保存先 1 に[オンラインストレージ 1] 保存先 2 に[オンラインストレージ 2] を設定します。

環境設定 (対象設定)

割符対象設定では割符する対象のフォルダやファイルタイプを指定します。環境設定画面が開いていない場合、タスクトレイの Tally PLUS アイコンを右クリックします。割符の対象フォルダは複数作成でき、それぞれのフォルダに個別に拡張子やサブフォルダ設定を指定できます。

- 割符対象設定リスト: 割符処理を行うフォルダのリストです。このリストにあるフォルダにファイルが置かれると自動的に分割されます。
- 編集: 既存の設定を編集します。
- 追加: 割符処理を行う作業フォルダを新規作成するための下記ウィンドウが表示されます。作成した作業フォルダはリストに追加されます。
- 削除: 既存の設定を削除します。

① [追加] ボタンをクリックすると、専用画面が表示されます。ファイルをその中に入れると割符されるフォルダ(割符対象フォルダ)を[参照] ボタンをクリックして指定します。次に、割符する対象のファイルのタイプをクリックします。これ以外のファイルは、割符対象フォルダに入れても割符されません。

- 割符対象フォルダ: 割符処理を行う作業フォルダを指定するには参照ボタンをクリックします。このフォルダにファイルをドロップすると自動的に割符されます。
- サブフォルダも割符対象にする: ファイルではなく、フォルダを作業フォルダにドロップした時に、そのフォルダ内のファイルも割符するかどうか指定します。
- 割符対象ファイル: 割符するファイルタイプを指定します。選択したファイルタイプのみ分割します。また[ユーザー定義]にチェックを入れ、その下のフィールドに拡張子を入れると、その拡張子を持つファイルタイプも対象となります。複数あればスラッシュ (/) で拡張子を区切って下さい。大文字と小文字は区別されません。
- 保存: 設定を保存します。
- キャンセル: 設定を削除して、元の画面に戻ります。

② [保存] ボタンをクリックします。

環境設定 (セキュリティ)

セキュリティでは、ユーザーや管理者のログインアカウントとファイルの復元パスワードを指定します。

環境設定画面が開いていない場合、タスクトレイの Tally PLUS アイコンを右クリックします。左の列から[セキュリティ] タブを選択します。設定が終わりましたら[割符設定保存] ボタンをクリックします。

- 2 ファクター認証設定: [電話認証]を選択すると、Tally PLUS にログインする時に ID/パスワードに加え、電話での認証方式も使用します。[ワンタイムパスワード認証]を選択すると、Tally PLUS にログインする時に ID/パスワードに加え、ワンタイムパスワードも使用します。いずれかを必ず選択して下さい。
電話認証での実際の認証方法は、第 5 章の「環境設定 (基本設定)」をご覧ください。
ワンタイムパスワード認証での実際の認証方法は、下記をご覧ください。電話番号が変更になった場合、設定が[ワンタイムパスワード認証]から[電話認証]に強制的に変わります。
- 他の PC でも閲覧可能にする: 他の端末が割符ファイルを使用して原本を復元できるようにします。ただし、復元に必要な最低限のファイルにアクセスできることが条件になります。
- 割符時にパスワード使用: ファイルを復元する時にパスワードを設定したい場合にチェックを入れます。
- 割符ユーザー設定: ユーザーID、パスワード(マスキング済)が表示されます。ユーザーID は変更できませんが、パスワードは変更可能です。
- ログイン・仮割符セッションタイムアウト: アイドル状態 (Tally PLUS で何も処理を行わない状態) が指定時間以上経過すると再度ログインを求めるよう設定できます。また、分割した後このフィールドに設定した時間内であれば、仮割符した状態からファイルを復元できます。この時間が経過してしまうと、仮割符された状態からのファイルの復元ができなくなります。
- 管理者設定: ユーザーID、パスワード(マスキング済)が表示されます。ユーザーID は変更できませんが、パスワードは変更可能です。

ワンタイムパスワード認証の設定方法

[ワンタイムパスワード認証]を選択した場合、下記の手順を行います。インターネットに接続していない場合でも使用可能です。

iOS 端末の場合

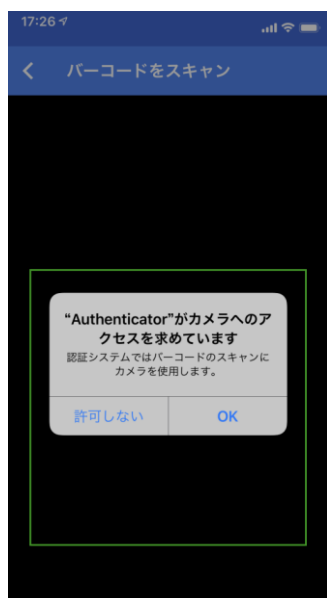
- ① スマートフォン側で認証用アプリをダウンロード、インストールします。iOS 端末で App Store にアクセスします。
- ② 「Google Authenticator」アプリを検索し、ダウンロードします。
- ③ Tally PLUS の[環境設定]画面を開き、[セキュリティ]タブを選択します。
- ④ [2 ファクター認証設定]で、[ワンタイムパスワード認証]を選択します。
- ⑤ iOS 端末にて「Google Authenticator」を起動します。[設定を開始]をタップします。



- ⑥ [バーコードをスキャン]をタップします。



- ⑦ 「"Authenticator"がカメラへのアクセスを求めています」にて、[OK]をタップします。



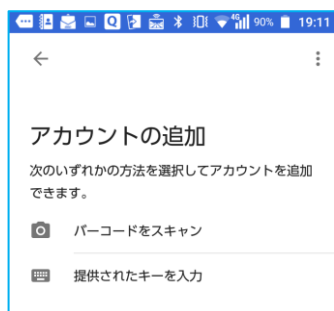
- ⑧ Tally PLUS 画面に表示された QR コードを iOS 端末のカメラで撮影します。
- ⑨ ワンタイムパスワードが iOS 端末上に表示されます。
- ⑩ Tally PLUS の環境設定画面に表示された QR コードの右隣の[検証コード]欄に、この 6 桁の番号を入力します。30 秒でパスワードが変わるため、⑨～⑩を 30 秒の間に完了させる必要があります。
尚、[検証]ボタンを押す前までは、画面右下の[割符設定保存]ボタンは無効になっていますが、一旦検証が行われればボタンは有効になり、設定を保存できます。
- ⑪ これで、ワンタイムパスワード認証の設定が完了します。

Android 端末の場合

- ① スマートフォン側で認証用アプリをダウンロード、インストールします。Android 端末で Play ストアにアクセスします。
- ② 「Google 認証システム」アプリを検索し、ダウンロードします。本アプリがカメラにアクセスすることを許可して下さい。
- ③ Tally PLUS の[環境設定]画面を開き、[セキュリティ]タブを選択します。
- ④ [2 ファクター認証設定]で、[ワンタイムパスワード認証]を選択します。
- ⑤ Android 端末にて「Google 認証システム」を起動します。[開始]をタップします。



- ⑥ [バーコードをスキャン]をタップします。



- ⑦ Tally PLUS 画面に表示された QR コードを Android 端末のカメラで撮影します。
- ⑧ ワンタイムパスワードが表示されます。
- ⑨ Tally PLUS の環境設定画面に表示された QR コードの右隣の[検証コード]欄に、この 6 桁の番号を入力します。30 秒でパスワードが変わるため、⑨～⑩を 30 秒の間に完了させる必要があります。
- 尚、[検証]ボタンを押す前までは、画面右下の[割符設定保存]ボタンは無効になっていますが、一旦検証が行われればボタンは有効になり、設定を保存できます。
- ⑩ これで、ワンタイムパスワード認証の設定が完了します。

環境設定 (USB リスト登録)

USB リスト登録では Tally PLUS で利用する USB を登録します。登録した USB は、分割・復元時に必ず PC に接続して下さい。環境設定画面が開いていない場合、タスクトレイの Tally PLUS アイコンを右クリックします。

環境設定画面が表示されましたら左の列から[USB リスト登録]を選択します。設定が終わりましたら[設定保存]ボタンをクリックします。

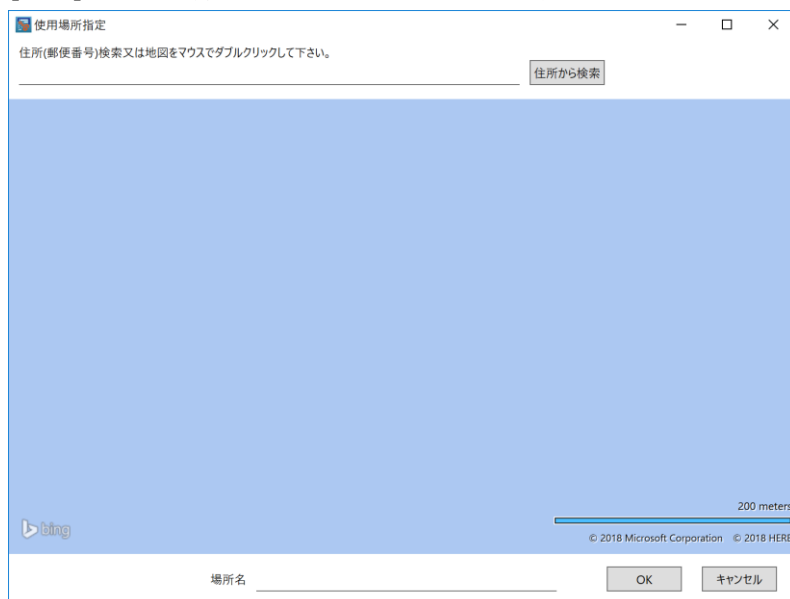
- 登録 USB のみ使用: Tally PLUS で利用する USB を登録し、これ以外の USB は割符ファイルの保存先として使えなくするようにしたい場合にチェックを入れます。
- USB 情報取得: USB を接続しボタンをクリックすると USB の情報が表示されます。
- Tally PLUS 用 USB 登録リスト: 登録されている USB が表示されます。USB を接続するとその USB のモデル名、容量、シリアル番号が表示されます。
- リスト追加: 選択した USB が Tally PLUS 用 USB 登録リストに登録されます。
- 削除: 選択した USB を Tally PLUS 用 USB 登録リストから削除します。

環境設定 (使用場所登録)

使用場所登録設定では Tally PLUS の使用場所を登録し、その場所範囲内でしかファイルを復元できないようにします。Tally PLUS は Wi-Fi や GPS で位置情報を取得します。有線 LAN では正しい位置情報を取得できない可能性があります。

- 登録場所でのみ復元を許可する: 使用場所登録を有効にします。
- 登録場所から半径〇〇〇メートル内で可能: 使用可能となる半径距離を指定します。
- 登録場所リスト: 作成した登録場所が表示されます。
- 編集: 既存の登録場所を編集します。
- 追加: 新規の登録場所を作成します。
- 削除: 既存の登録場所を削除します。

[追加]ボタンを押すと、下記のウィンドウが表示されます。



住所(一部でも可)を入力し、[住所から検索]ボタンをクリックすると、入力した場所が地図中央に表示されます。[場所名]に任意の名前を入力し、[OK]ボタンをクリックすると、この場所を設定できます。又、地図上の任意の場所をダブルクリックすると、その位置が設定されます。



環境設定（管理サーバ設定）

管理サーバ設定では Tally PLUS のログファイルや設定情報を管理サーバに保存するかどうかを指定します。Tally PLUS のユーザーが行った操作ログをローカルマシンだけでなく、管理サーバに同時保存することで管理者が閲覧できます。

- 管理サーバ使用する: [参照]ボタンをクリックして指定するか、直接パスを入力し、Tally PLUS のログを保存する先の管理サーバを指定します。
- ネットワークユーザー: 管理サーバとするネットワークフォルダのユーザーID を指定します。
- ネットワークパスワード: 管理サーバとするネットワークフォルダのユーザーID を指定します。
- プロキシ使用: インターネットに接続する際に社内プロキシを使用する場合は「プロキシ使用」にチェックを入れて必要な情報を入力して下さい。

設定情報の表示

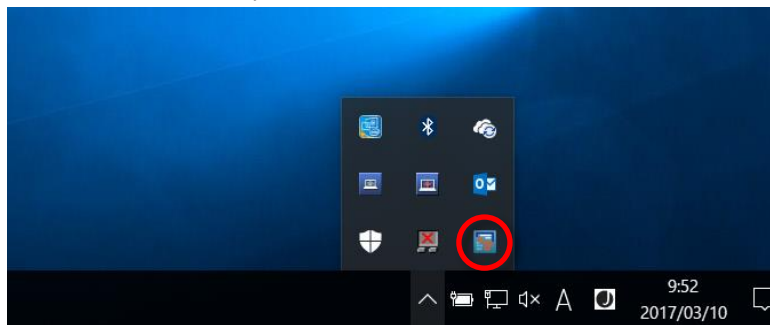
現在の Tally PLUS の設定情報を閲覧できます。

- ① 画面上の何もない領域を右クリックし、[設定情報]をクリックします。
- ② 現在の設定環境で、割符に必要な最低限の保存場所にアクセスできる状態であれば、割符可能と表示されます。保存場所にアクセスできない状態であれば、仮割符と赤字で表示されます。また、現在の割符設定も表示されます。
- ③ ウィンドウを閉じるには、ウィンドウ右上の×をクリックします。

6 Tally PLUSの操作履歴

Tally PLUS で分割した処理内容の情報を履歴として表示します。

- ① タスクトレイの Tally PLUS アイコンを右クリックします。



- ② [履歴]をクリックします。
- ③ ユーザーアカウント、又は、管理者アカウントでログインします。
- ④ 履歴画面が表示されます。

画面上部のラジオボタンで選択した範囲での割符処理の履歴をリストに表示します。目的の表示範囲をラジオボタンで選択するか[指定日]を選択した場合は、隣のカレンダーで目的の日付を選択します。

下段のリストには、その範囲での実行ユーザー名、分割日時、処理内容、分割したファイルのパスが表示されます。

履歴の表示には【割符】【仮割符】【割符ファイル削除】【割符ファイル上書き保存】【割符ファイル移動】【割符ファイル名変更】【名前付けて保存】【割符ファイル開く】【割符ファイルエクスポート】【割符ファイルインポート】があります。

【割符】は、設定した保存場所すべてに正常に割符ファイルが保存された場合に表示さ

れます。

【仮割符】とは、設定した保存場所がアクセス不能な場合に、割符ファイルを一時的にコンピュータ内部のセキュリティが確保されている場所に保存し、設定した保存場所にアクセスが可能になった際、その保存場所に割符ファイルを移動します。尚、割符ファイルが正しい保存場所に移動されるまでファイルを復元する事はできません。

【割符ファイル削除】は、割符されたデータの一つを削除した場合に表示されます。

7 ファイルの分割

分割方法

ファイルを実際に割符ファイルに分割します。分割後は、割符のショートカットが作成され元ファイルは削除されますので、ご注意ください。

- ① 「環境設定」の章で指定したフォルダに、分割したいファイルをドロップすると、自動でそのファイルが「環境設定」の章で設定された設定に基づき分割されます。
- ② 割符ファイルは、[基本設定]タブで設定した保存場所に保存されます。
- ③ ファイルは分割され、作業フォルダ内は下図のように割符のショートカットが表示されます。



ファイルを分割する上で必要最低限の保存場所にアクセスできない場合（例：設定したネットワークドライブにアクセスできない、USB がマシンに接続されていない等）ファイルは仮割符されます。仮割符とは設定した保存場所がアクセス不可の場合に割符ファイルを一時的にマシン内部のセキュリティが確保されている場所に保存し、設定した保存場所にアクセスが可能になった際、その保存場所に改めて割符ファイルを移動する機能です。

8 ファイルの復元

復元方法

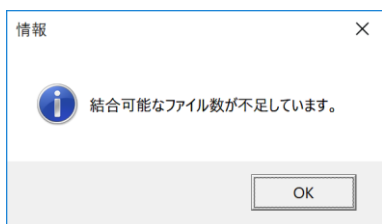
Tally PLUS の環境設定（対象設定）で指定した割符対象フォルダには、前節で述べたように

割符のショートカットが作成されています。復元処理はこのショートカットをダブルクリックすることで行います。復元処理には時間がかかる場合があります。

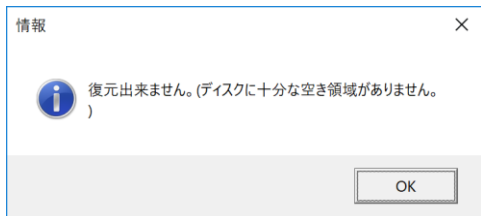
<復元処理の概要>

- 開きたい割符ファイルのショートカットをダブルクリックします。
- Tally PLUS が分割時に設定された保存場所から断片を収集します。
- Tally PLUS が断片データから元のデータに復元します。
- Windows へ復元されたデータを引き渡します。
- Windows は本データをあらかじめ関連付けられたアプリケーションで開きます。
関連するアプリケーションが見つからない場合にはエラーになりますので、
第 2 章の手順に従いアプリケーションの関連付けをし直してください。

ファイルの内容を編集後、上書き保存するとファイルは再度分割されます。もし、復元に必要なすべての割符ファイルが揃わない場合、下記のメッセージが表示されファイルを復元できません。



復元先のディスクの容量が足りない場合、下記のメッセージが表示され、復元できません。



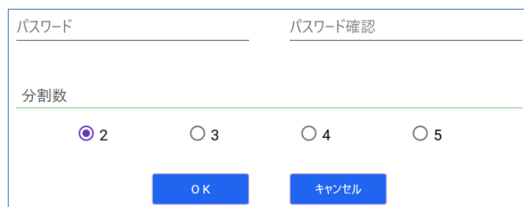
Tally PLUS で秘密分散処理されたデータを他のユーザーでも共有したい場合、作成されたショートカットを引き渡すことで可能となります。ただし、その場合には、第 5 章 環境設定 (セキュリティ) の [他の PC でも閲覧可能にする] を有効にしてください。

9 ファイルのエクスポート

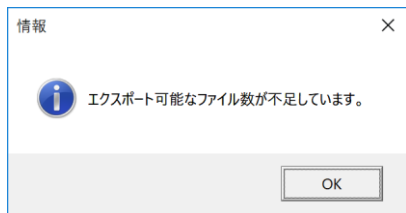
エクスポート方法

ファイルを他のコンピュータに送るため、そのファイルの割符ファイルを作成し、簡単に送付できるようにしたのがエクスポート機能です。

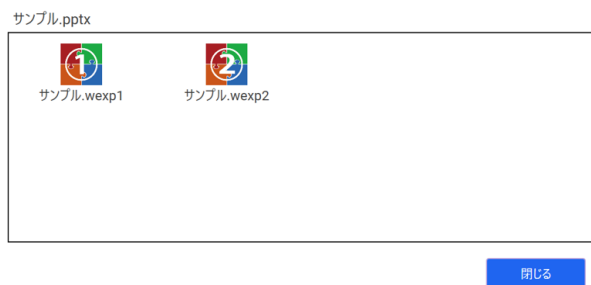
- ① エクスポートしたいファイルを右クリックし[Tally PLUS エクスポート]をクリックします。
- ② エクスポート時の復元パスワードを設定し分割数を選択します。次に[OK]ボタンをクリックします。



- ③ 復元に必要なすべての割符ファイルが揃わない場合、下記のメッセージが表示されファイルを復元できないため、エクスポートできません。



- ④ [エクスポートファイルリスト]ウィンドウが開きます。



- ⑤ ウィンドウに表示されたエクスポートファイルをデスクトップ上、メールメッセージ上、USB ドライブ上、FTP ウィンドウ上等にドラッグアンドドロップします。尚、下図のファイルアイコンを一回クリックしてから、ドラッグアンドドロップして下さい。
- ⑥ [閉じる]ボタンをクリックします。

割符ファイルの一つをメールメッセージに添付したり、もう一つを USB に入れる等をして異なる手段で割符ファイルを送ると、より安全にデータを移送できます。

10 ファイルのインポート

インポート方法

エクスポートされたファイルを Tally PLUS に取り込みファイルを復元するインポート機能について説明します。インポート後、ファイルは再度その端末にインストールされている Tally PLUS の分割設定にて分割されます。

- ① インポートしたファイルを入れるフォルダの空いている領域で右クリックし[インポート]をクリックします。
- ② [インポート]ウィンドウが開きます。



- ③ エクスポートされたファイルを[インポート]ウィンドウの指定の場所へドラッグアンドドロップするか、ウィンドウ右上にある[+]ボタンをクリックし、ファイルを選択します。インポートファイルが揃いますと[OK]ボタンが有効になります。
- ④ 復元パスワードを入力し[OK]ボタンをクリックします。ファイルがインポートされ再度インポート元の割符設定で分割されます。

11 プロパティ

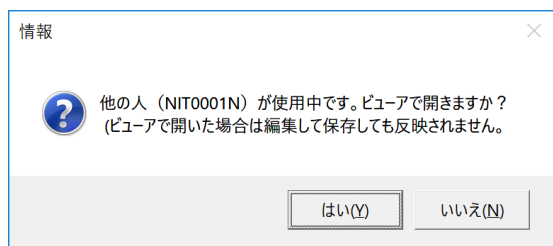
プロパティの閲覧

割符ファイルのプロパティでは、原本（元ファイル）のファイルハッシュや原本ファイルサイズ、復元可否、割符のファイルパス等、対象の割符ファイルの各種情報を参照できます。割符ファイルを右クリックし[プロパティ]を選択します。

管理者モード

あるユーザーA が社内の共有サーバ上にある割符を復元し、ファイルの内容を編集している時に、他のユーザーB はファイルを更新できないようになっています。このファイルロックの仕組みは一般的に排他制御と呼ばれています。この排他制御により、ファイルの整合性が保たれます。

ユーザーA がファイルを開いている時に、ユーザーB がファイルを復元しようすると、下記のメッセージが表示されます。この時、ファイルをビューアモードで開き、閲覧することは可能ですが、編集して保存することはできません。



TallyPLUS では、ファイルが開かれると、排他制御ファイルが生成され、ファイルの排他制御が有効になります。排他制御ファイルは割符毎に個別に生成され、排他制御ファイルが存在している限り、ロック状態となります。もし、ユーザーA が編集作業完了後もファイルを閉じていなかったり、仮にファイルを閉じて一つの割符へのアクセスが遮断され、排他制御ファイルが削除できなかった場合、他のユーザーは永遠にそのファイルの編集更新ができなくなります。これを避けるため、管理者が排他制御ファイルを強制的に削除し、他のユーザーでもファイルを更新できるようにする機能が管理者モードです。

管理者モードは、割符ファイルのプロパティウィンドウで、右上の[管理者モード]ボタンをクリックします。管理者のユーザーとパスワードを入力する画面が表示され、入力後に[OK]をクリックします。



ファイルが開いている場合、ウィンドウの左上に「排他制御ファイルが○ヶ所あります。」と表示されます。各割符の横に赤色のゴミ箱アイコンが表示され、残存した排他制御ファイルは個別に削除できます。すべての排他制御ファイルを一度に削除するには、[一括削除]ボタンをクリックします。削除完了後、ゴミ箱アイコンが消え、他のユーザーがファイルを更新できるようになります。

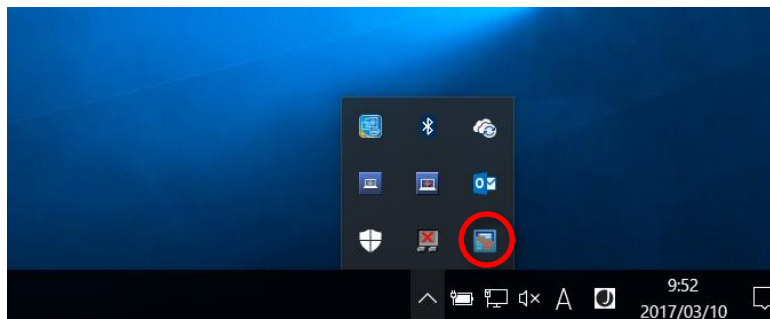
排他制御ファイルが存在している場合は、「排他制御ファイルが○ヶ所あります。」等のメッセージが表示されます。ファイルが開いていない場合、ウィンドウの左上に「排他制御ファイルはありません」と表示されます。

排他制御ファイルは、ネットワークフォルダやオンラインストレージ上にのみ生成されます。ローカル上には生成されません。

12 Tally PLUSのバージョン情報

現在インストールされている Tally PLUS のバージョン情報を表示します。

- ① タスクトレイの Tally PLUS アイコンを右クリックします。



- ② [バージョン情報]をクリックします。
- ③ バージョン情報やソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。

13 割符ファイルの処理

仮割符の自動削除

仮割符されたファイルが正式に割符されると、仮割符で作成された割符ファイルは自動的に削除されます。

ショートカットの削除

ユーザーが割符フォルダにあるショートカットを削除すると下記のメッセージが表示されます。

割符ファイルを削除されました。他の場所に保存されている割符ファイルも削除しますか？
(保存場所の状況により、削除出来ない場合があります。)

[はい]をクリックすると、保存先にある各割符ファイルを削除します。[いいえ]をクリックすると、削除しなません。複数のファイルを選択し一括して各割符ファイルを削除したい場合は[全てはい]をクリックします。一括削除をしない場合は[全ていいえ]をクリックします。キャンセルは×をクリックします。

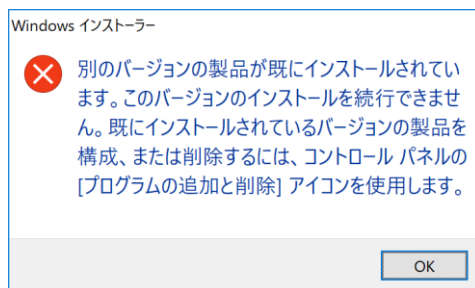
14 Tally PLUSのバージョンアップ・削除

セットアップファイルを使用したバージョンアップ手順

Tally PLUS セットアップファイルを使用して Tally PLUS をバージョンアップするには、下記の手順を行います。

- ① 環境設定[セキュリティ]で、[電話認証をしない]を選択して利用されている方は、[電話認証する]に変更してから、現在お使いのバージョンをアンインストールしてください。もし[電話認証しない]のままアップデートした場合には、アクティベートし直す必要があります。

- ② 新しいバージョンの Tally PLUS のセットアップファイルを手元においておきます。
- ③ 現在 Tally PLUS の画面を開いている場合は閉じて下さい。
- ④ Windows で、コントロールパネル等から、使用バージョンの Tally PLUS-S のアンインストールを行います。
もしアンインストールせずに新バージョンをインストールしようとした場合、下記のエラーメッセージが表示され、インストールが停止されます。



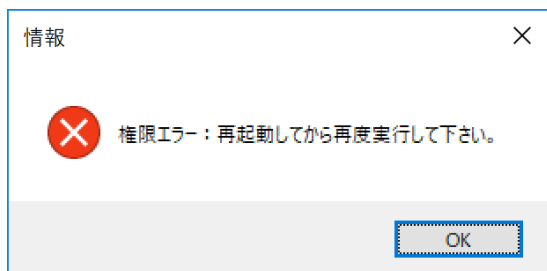
- ⑤ アンインストール中に、「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」という旨の画面が表示されることがあります。この場合、[セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する]を選択し[OK]ボタンをクリックします。アンインストール後は、コンピュータを再起動します。
- ⑥ ユーザーアカウント制御のポップアップが表示されることがあります。その場合、[はい]をクリックします。
- ⑦ 「関連設定ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されるので、[いいえ]を選択します。これにより、ユーザー情報、環境設定情報、ライセンスキーはそのまま引き継がれます。ライセンスキーはアクティベーション解除しなくても構いません。設定情報を含め完全に削除したい場合は[はい]を選択します。
- ⑧ アンインストールが完了します。
- ⑨ 新しいバージョンの Tally PLUS セットアップファイルを実行し、第 3 章の手順にて Tally PLUS をインストールします。インストール後、環境設定のし直しや再アクティベーションは不要です。

アップデータを使用したバージョンアップ手順

Tally PLUS アップデータを使用して Tally PLUS をバージョンアップするには、下記の手順

を行います。アップデータの実行ファイルはセットアップファイルと異なりますのでご注意ください。

- ① 環境設定[セキュリティ]で、[電話認証をしない]を選択して利用されている方は、[電話認証する]に変更してから、現在お使いのバージョンをアンインストールしてください。もし[電話認証しない]のままアップデートした場合には、アクティベートし直す必要があります。
- ② Tally PLUS の画面を開いている場合は閉じて下さい。
- ③ 新しいバージョンの Tally PLUS アップデータを実行します。
- ④ 現バージョン(バージョンアップ前のバージョン)と新バージョン(バージョンアップ後のバージョン)を確認し、[アップデート開始]ボタンをクリックします。
- ⑤ バージョンアップ処理中に下記メッセージが出力される場合があります。その場合には再起動後に再度アップデートを実施してください。



- ⑥ バージョンアップ処理が行われ、正常に完了すると「アップデートを完了しました。」というメッセージが表示されます。
- ⑦ [OK]ボタンを押すと、数秒後に Tally PLUS が再起動されます。Windows は再起動されません。
- ⑧ Tally PLUS のバージョンアップが完了します。環境設定のし直しや再アクティベーションは不要です。なお、アップデータのウィンドウは自動では閉じません。右上の×ボタンを押して閉じてください。

セットアップファイルを使用してバージョンアップをせずに、アップデータを使用して Tally PLUS をバージョンアップすると、Windows のアンインストール画面のプログラム一覧に表示される Tally PLUS のバージョンが、Tally PLUS プログラムのバージョンと一致しない場合があります。例えば、Tally PLUS 1.2.0 をインストールした状態でも、下図に表示されているのが「1.1.0」となるケースがあります。

アップデータを使用しても、使用した「セットアッププログラム」のバージョンは変わりませんので、これは正しい動作になります。この欄に表示されるバージョンは、セットアップファイルのバージョンになり、Tally PLUS のバージョンではありません。

プログラムを完全に削除する場合

「Tally PLUS 関連設定ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されるので、[はい]を選択します。Tally PLUS の削除を続行します。削除が完了したら、コンピュータを再起動します。

15 Tally PLUSの使用上の注意

- 割符設定を保存した時点で直ちにファイルが分割されます。
- コンピュータがスリープ状態になると復元されたファイルが削除され、復元前の割符ファイルの状態に戻ります。
- デスクトップ画面の右下のタスクトレイに Tally PLUS のアイコンがない場合には、コンピュータを再起動するか、インストールフォルダにある「AtWarihuPlus.exe」を起動します。
- 割符対象フォルダを設定すると、既にそのフォルダ内にあるファイルは自動的に分割されてしまいます。既存のフォルダを割符対象フォルダに指定する際には十分にご注意下さい。
- 登録した電話番号を変更する場合は、購入先までご連絡下さい。
- Tally PLUS のショートカットのバックアップや環境設定等のバックアップは、必ずユーザー様の責任において行って下さい。弊社ではこの責任は負いません。
- 割符保存先としてモバイル機器や USB をハブ経由で使用する場合は、外部電源型 USB ハブを使用する事をお勧めします。外部電源の無い USB ハブは電力が不足する可能性があるため、正しくデバイスを認識できない場合があります。